

ヤマハ WLX212

テレワーク×オフィスワークを使い分け リモート会議に対応した無線LANのアップグレード

新型コロナ対策を機にテレワークを体験し、メリットもデメリットも理解した今だからこそ、新たなハイブリッド型ワークスタイルへの移行が必要だ。それには、一段ベースアップした無線ネットワークも不可欠となる。ヤマハではオフィスと自宅から安心して簡単に運用できるネットワーク管理体制を提供する。



- この冊子は「月刊テレコミュニケーション」2021年2月号より抜粋したものです。
- 掲載記事の複写・無断転載を禁じます。

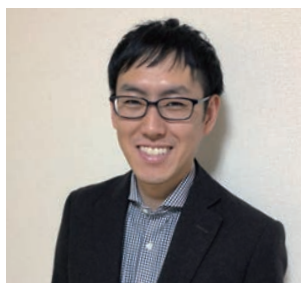
テレワーク×オフィスワークを使い分け リモート会議に対応した無線LANのアップグレード

新型コロナ対策を機にテレワークを体験し、メリットもデメリットも理解した今だからこそ、新たなハイブリッド型ワークスタイルへの移行が必要だ。それには、一段ベースアップした無線ネットワークも不可欠となる。ヤマハではオフィスと自宅から安心して簡単に運用できるネットワーク管理体制を提供する。

新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに、われわれの働き方はがらりと変化した。コロナの蔓延以前から「働き方改革」が言われていたが、感染防止を目的に半ば強制的に、業務効率を求めて人が密に集まっていたオフィスワークを避け、テレワークへの移行が進んだともいえる。

一足早く、2000年代半ばから遠隔会議ツールやMicrosoft 365 (旧Office 365) のようなクラウドサービスを導入し、テレワーク環境を徐々に整備してきたヤマハでも、「マーケティングGは浜松と東京で1つのチームを組んでテレワークできているように思っていました。実はそれほどできていませんでした。コロナを機に、社内の会議も商談も遠隔会議で行い、チャットやメッセージを用いてコミュニケーションする働き方が、当たり前のようにできるようになりました」と、コミュニケーション事業部の平野尚志氏は語る。

実際に体験してみると、テレワークのメリットもデメリットも見えてくる。オンとオフをうまく使い分けて自分の時間を有効に活用でき、特に出産・育児との



(左から)ヤマハ コミュニケーション事業部マーケティング セールス部マーケティングG平野尚志氏、営業戦略G志村侑汰氏

両立が容易になった一方で、仕事とプライベートの切り分けが難しいという声もある。また対面でのコミュニケーションとは異なり、雑談を通じて伝わっていた雰囲気やニュアンスが共有しにくいといった課題も見えてきた。これは、テレワークを好むと好まざるに関わらず多くの人が体感しているところではないだろうか。

この先、新型コロナウイルスの影響がどこまで続くかは不透明だ。メリットもデメリットも体験し、選択肢が増えてきたからこそ、「オフィスワークだけでもなければテレワークだけというわけでもない、ハイブリッド型ワークスタイル、つまり両方を上手に使い分けていく働き方が求められるのではないだろうか」(平野氏)

オフィスでの三密体制回避に必要 ニューノーマルのNWインフラ

緊急事態宣言とともに、テレワークに必要な自宅のネットワーク環境をビジネス品質にしたいというニーズが顕在化し、ヤマハでは「テレワーク相談窓口」を設けてさまざまな悩みに答えてきた。そして緊急事態宣言が解除となり、徐々にオフィスに人が戻ってくると、今度はまた新たな悩みが浮上してきたという。

それは「オフィスでの三密体制をどうにかしたい」という声だ。執務エリアでもソーシャルディスタンスを保ったまま業務を継続するには、これまでのように机を並べて働く環境からフリーアドレスへの移行が望ましいと考える企業が増えている。また、リモート会議の増加により、会議室エリアの増強も不可欠だ。将来的には、オフィスのレイアウト変更や引っ越しも視野に入れて検討していく必要があるかもしれない。

いずれにせよ職場のファシリティやネットワークは、一つの場所に多くの人を集めて効率よく管理していく方法を



ヤマハの無線LANアクセスポイント (AP) 「WLX212」。本体内蔵コントローラーによるオンプレミス管理に加え、クラウド型管理サービス「Yamaha Network Organizer (YNO)」に対応し設定や監視などを遠隔から一括で行える

ら、場所にとらわれない働き方を支えるものへと変化していくことは間違いない。自ずと管理の仕方も変わるし、ネットワークインフラという側面では「通信の安定性」「情報セキュリティ」「ネットワーク管理」という3つのポイントを抑えながらベースラインを上げていく必要がある。

既存の機器から容易にリプレース 高性能アクセスポイント「WLX212」

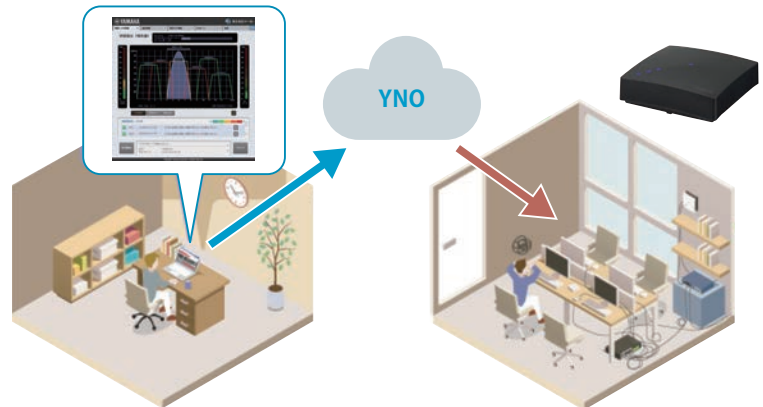
場所にとらわれない働き方というと自宅やモバイル環境に目が行きがちだが、ハイブリッド型ワークスタイルという観点からいえば、オフィスの環境、特に無線LAN環境の整備も必要だ。もちろん最近のオフィスならば、無線LANが使えない環境は少数派だろう。

だが、ただつながると、遠隔会議を多用し、PCだけでなくスマートフォンやタブレット端末など多様な機器を使いこなす前提で安定した無線LAN通信を実現するのでは、自ずと求められる性能や品質も違ってくる。数年もののアクセスポイント(AP)で、ひと世代前の仕様のままでは困難だ。

「既設のAPで802.11nや11ac wave1を使ってきたところに新型コロナウイルスが到来してしまい、テレワークやハイブリッド型ワークスタイルにマッチしない状態になっている場合もある。働き方の見直しをきっかけに、APもベースアップすべきではないでしょうか」(平野氏)

既存のAPから安心して移行でき、性能を改善するだけでなく、シンプルな無線LAN管理ができて安心してばらまける——そんなコンセプトでヤマハが2020年7月に発売したのが「WLX212」だ。IEEE 802.11ac wave2に対応し、それまでのモデルに比べて高い性能を実現するとともに、WPA3、Enhanced Open、192ビット暗号といったセキュリティ機能も強化し、さらにRADIUSサーバー機能も搭載している。それでいて消費電力は低く抑えられており、既存

図表 Withコロナ時代のリモートWi-Fi管理イメージ



ネットワーク管理者（在宅勤務も可能）

ネットワーク管理者（在宅勤務も可能）
社員自宅、サテライトオフィス、店舗、拠点

のAPから安心してつなぎ替えられる。

もう1つの特徴は、充実した管理機能を備えていることだ。ヤマハが提供しているクラウド型の管理サービス「YNO」に対応し、複数拠点にまたがる統合管理が可能になったほか、自動的に立ち上がる「仮想コントローラー」によって同一セグメント内の複数APの管理を簡素化する「クラスター型管理機能」を搭載した。「クラスター型管理機能」を用いれば設定管理が自動化できるため、APが一台動いているところに二台目、三台目を入れる場合、管理者はほとんど何もしなくてもいいぐらいです」と、ヤマハ コミュニケーション事業部の志村侑汰氏は説明する。

加えて、LANを可視化するWebアプリケーションの「LANマップ」では、端末まで含めたLANのネットワーク構成や各機器の情報をWeb GUI上で確認することが可能だ。スイッチなどのネットワーク機器だけでなく、それらに接続しているPCやスマホ、ネットワークカメラなどのデバイスも確認できる。

安定した通信を実現した上でこれらの充実した管理機能を提供し、ユーザー自ら簡単にネットワークを管理できるようにしてトラブルを減らす——WLX212は、そんな以前からのWLXシリーズのコンセプトを具現化したものとも表現できる。

ただ、Wi-Fi 6のようなより高速な規

格も視野に入れて無線LANをベースアップしていけば、そう遠くない将来、スイッチやLANケーブルといった有線LAN側がボトルネックになる。ネットワーク全体のベースを上げていくことを考えると、マルチギガスイッチの投入も遠からず期待したいところだ。

これからの時代に選択肢を ハイブリッドな働き方を自由に

コロナをきっかけに多くの人が新しい働き方を体験し、その経験を踏まえ「この先、自分たちはどのように働いていくべきか」を模索しつつある。

テレワークならば自宅やシェアオフィス、オフィスワークなら執務エリアに会議エリア、サテライトオフィスとさまざまな選択肢がある中で、自分たちの業務内容やチームの状況、個人のライフスタイルに応じて自由に選べる状態になっていくべきであり、それがハイブリッド型ワークスタイルの目指すところだ。会社が特定の働き方を一律に押しつけるのではなく、「こういう働き方をしたい」という社員の選択肢を可能にする状態を作る——そのためのソリューションをヤマハは提供していく。

お問い合わせ先

ヤマハ株式会社

ヤマハルーターお客様ご相談センター

TEL : 03-5651-1330

URL : <https://network.yamaha.com/>

New
WLX212(w)
 発売中

New
WLX212(B)
 発売中

New
WLX413 (Wi-Fi 6対応トライバンド)
 2021年3月発売予定

ヤマハが変える企業無線LAN

WLXシリーズ 第三世代の物語が始まる

ヤマハ WLX [検索](#)

第二世代 (グループ型管理)

	無線LAN					有線LAN
	帯域	準拠規格	MIMO	同時接続	最大速度	
WLX402	2.4GHz	b/g/n	2x2,1U	50台	300M	1G (2ポート)
	5GHz	a/n/ac	4x4,3U	50台	1.7G	
WLX313	2.4GHz	b/g/n	2x2,1U	50台	400M	1G (1ポート)
	5GHz	a/n/ac	2x2,2U	50台	867M	
WLX202	2.4GHz	b/g/n	2x2,1U	50台	300M	1G (1ポート)
	5GHz	a/n/ac	2x2,1U	50台	867M	

第三世代 (クラスター型管理 & クラウド型管理)

	無線LAN					有線LAN
	帯域	準拠規格	MIMO	同時接続	最大速度	
New WLX413	2.4GHz	b/g/n/ax	4x4,4U	100台	1.1G	mGig/10G (1ポート)
	5GHz	a/n/ac/ax	4x4,4U	200台	2.4G	
New WLX212	2.4GHz*	b/g/n	2x2,1U	50台	400M	1G (1ポート)
	5GHz*	a/n/ac	2x2,2U	50台	867M	

* 指向性と無指向性のアンテナ内蔵
 1U: SU-MIMO
 2U ~ 4U: MU-MIMOの最大ユーザー数

WLXシリーズ概要

	希望小売価格	動作周囲温度	消費電力	PoE規格	見える化ツール	LANマップ	RADIUSサーバー	内蔵コントローラー	クラウド型管理
WLX413	248,000円(税抜)	0°C ~ 50°C	最大28W	PoE++ (bt)	○	○	4000件 + 証明書	クラスター型管理	YNO
WLX402	99,800円(税抜)	0°C ~ 50°C	最大18W	PoE+ (at)	○	○	2000件 + 証明書	グループ型管理	-
WLX313	69,800円(税抜)	0°C ~ 50°C	最大20W	PoE+ (at)	○	○	300件 + 証明書	グループ型管理	-
WLX212	39,800円(税抜)	0°C ~ 50°C	最大9.6W	PoE (af)	○	○	200件 + 証明書*	クラスター型管理	YNO
WLX202	39,800円(税抜)	0°C ~ 50°C	最大3.8W	PoE (af)	-	○	200件	グループ型管理	-

* 対応予定

心が動くその瞬間を、ネットワークエンジニアが支えている。

Yamaha is Proud of Network Engineers